

全国学力・学習状況調査について

学校長 八杉弘昭

向春の候、保護者地域の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は、本校教育にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、6年生を対象に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が届き、分析した本校児童の学習状況や学力についてお知らせいたします。この調査で測定できる学力は特定の一部ではありますが、本校の状況は、国語の基礎的な内容や算数の知識を問う問題については、課題があることが分かりました。

<国語>

主として知識に関する問題では、「書くこと」に関する問題で兵庫県と比較して正答率は高いものの、「話すこと聞くこと」に課題が見られました。また、低学年時に学習した漢字を忘れていた児童が多いという傾向がありました。

主として活用に関する問題では、「話す聞くこと」についての問題は兵庫県と同じくらいですが、文章を読みまとめることに課題が見られました。

国語の取組として次の点について力を入れて指導していきたいと考えています。

- ・視写や音読に力を入れる。
- ・低学年のときに漢字が書けるようにする。
- ・説明文の「順序」(2年)「要点」(4年)「要約」(5年)の学習について力を入れる。

<算数>

主として知識に関する問題では、「数量関係」「数と計算」「量と測定」「図形」のすべての領域で兵庫県とほぼ同じくらいの結果ですが、小数に関する計算問題に課題が見られました。

主として活用に関する問題では、言葉や数を使って意味や理由を答える問題で課題が見られました。

算数の取組として次の点に力を入れていきたいと考えています。

- ・計算力向上に努める。
- ・考えを説明する機会を授業に取り入れていく。

<児童質問紙>

朝食は毎日食べている児童が多く、基本的な生活習慣は身につけている児童が多くいました。また、学校以外の読書の時間も増えているようです。しかし、スマートフォン・ケータイの所持率は高いことや、地域のボランティア等に参加する児童は少ないなどの課題もあります。

トラブルや生活習慣の乱れを注意するために、家庭と連携してスマートフォン等のルール作りやモラル学習を進めていきます。また、学校でも地域とのかかわりを意識した学習を進めるなど、この結果を受けて、学校でも、生活指導の改善に活かしていきたいと考えております。